

真声会 会報

第 54 号

2012年 6 月 25 日
発行

発行所

京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13番地の6
京都市立芸術大学音楽学部内
TEL (075) 334-2222 FAX (075) 334-2345
同窓会事務局 TEL (080) 6185-4494
e-mail : shinsei@kcua.ac.jp
http://shinseikai-kcua.com/

役員会を開催しました！

4月30日（月・祝）14時より、ザ・パレスサイドホテルに於いて2012年度役員会が行われました。

会長1名、副会長2名、運営委員長1名、編集委員長1名、会計1名、会計監査2名、各委員11名、支部長7名、各期年度委員31名、学生代表委員1名、学生年度委員8名（役職重複を含む）という近年稀に見る総計60名もの出席を頂き、音楽学部60周年に向けて熱のこもった報告と討議が続きました。

60周年のこの時、若々しい学生代表会員や学生年度会員、卒業後数年の若い年度委員のみなさんの多数の参加に、すべての世代をつないだ本当に喜ばしい役員会となりました。

司会：副会長 松本真理子副会長

1. 開会の挨拶 会長 大村益雄
2. 本部役員との紹介と支部長の紹介
3. 各支部の活動報告
4. 本部からの報告と依頼

ア. 音楽学部創立60周年

(1) 主な記念行事について

11月1日（木）東京藝大との交流演奏会：東京藝大演奏堂

12月2日（日）記念式典

12月9日（日）定期演奏会（卒業生と合同）：京都コンサートホール大ホール

(2) 寄付活動について

イ. 新名簿の作成について

ウ. その他

5. 質疑応答

6. 閉会の挨拶 副会長 大西多恵子



卒業式に出席して

副会長 大西多恵子（10期声楽）

3月23日、あいにくの雨に折角の晴れ着の袖や裾は濡れていました。各学部卒業証書授与式と大学院学位記授与式は、厳粛でいて柔らかな雰囲気が始まりました。伝統衣装の美しさに見取れ、また工夫された自己主張の意匠、作品に微笑みながら進みました。

和服姿の門川京都市長は今年の辰年に因み登り龍のユーモアを交え、京都市こそは、芸術を大切にしていかなければならないと祝辞を述べられました。建島学長は、アートと社会の関わり方の重要性をかたられました。古い卒業生の私自身にも、音楽と自分というテーマの大切さを改めて感じ入りました。その卒業生の言葉の中に、ご両親だけでなく、地域の方々への感謝を聞いて嬉しい気持ちになりました。全体に大袈裟でなく節度ある温かい式典だったと感じました。

まだ止まない雨の帰路での私の思いを、僣越ながら卒業の皆さまに伝えたいと存じます。この大学での勉強やレッスン、練習で得られたものを基にして更に深く探求し、或いは否定しながらでも、音楽から離れずに一生を送ってほしいと思います。数ヶ月や数年間の努力や勉強での成果や評価だけを期待し過ぎず、悲観せず決して悲しいことを起こさないでください。数十年の努力や練習でないと完成にたどり着かないのです。が、それぞれの理想のかたちには近づきたいと願いながら音楽の道を、私達卒業生はともに進んでいきたいとのぞんでいます。卒業の日スタートなのです。

入学式 雑感

副会長 松本真理子（15期打楽器）

4月10日。あいにくの雨模様となりましたが、平成24年度、京都市立芸術大学の入学式が執り行なわれました。この日を夢見たであろう音楽学部63名、修士、博士コースの前途洋々の若者達に、私は心からの拍手を送っていました。建島学長の式辞は特に印象に残るものでした。一昨年の大学創設130年を踏まえ、建学時の誇り、現代社会における大学の役割、学ぶことの意義を、穏やかな中にも厳しさを湛えて力強くお話されました。新入生の皆さんは、しっかり受け止めて下さった事と確信しています。私の気になったことと言えば、点呼の時の声の小ささ。自己表現の最たる芸術大学に入学したのですから、この時とばかりに、今の喜び、希望、意気込みを思い切り大きな声で応えてほしかった。もしかして私は、壇上から睨みつけていたかも知れませんが、”しっかり声を出しなさい”と。

真声会に新しい仲間を迎えられることを心からうれしく思います。今後のご活躍、ご健康をお祈りしております。

京芸生として4年間を過ごして

学生代表委員 第57期卒業生 林 みどり（コントラバス）

卒業式の日、袴の着付けをしてもらいながら、とうとうこの日が来てしまったと思うほどに、京芸で過ごした4年間は楽しく面白く充実していました。京芸のような規模の小さい大学ならではの、学生同士が専攻や学年を超えて知り合ったことや、先生方や大学事務の方々にも顔と名前を覚えていただいて、いろいろと気にかけてくださったことでした。

私は2回生で自治会に入り、3回生で自治会長に就きました。ちょうど前年度から真声会に学生会員として加えていただいたところだったので、総会に出席させていただくなどして真声会を他の学生よりも身近に感じていたと思います。総会では、歴代同窓の先輩方の代表と顔を合わせることができました。今年音楽学部が創立60周年を迎えますが、その創立のころの先輩達と直接話し、2年間の自治会活動を通して、真声会をはじめ様々な方々に支援していただいて充実した京芸生生活が送れるのだと知りました。大学の外でも、京芸の卒業生と出会うと京芸の話で盛り上がり、またそういった先輩方にいろいろと相談に乗っていただいたりして、同じ大学の先輩後輩という繋がりに助けられています。そのような交流の中で、先輩方がこうして私たちを支えてくださるのは、京芸への愛着と、さらに上の先輩方から続いている支援を私たち後輩に繋げてくださっているのだと感じました。

私たちも在学から卒業生となりました。これからは、今まで先輩方にいただいたことを後輩たちに繋げて、さらにその後輩たちにも繋がっていったらうれしく思います。

京都芸大音楽学部 創設60周年に想う

真声会会長 大村 益雄 (1期作曲)

歴史を振り返ると、1941年に始まった太平洋戦争(第2次世界大戦)が1945年に終結し、その時私は小学校6年生でした。戦中の爆撃、戦後の混乱を今も鮮明に覚えています。その後、日本に進駐してきたアメリカ占領軍は、日本人の精神文化を高めるために、西洋の音楽教育を助成する方針を京都で容認し、1948年に京都市立堀川高等学校音楽コース(現、京都市立京都堀川音楽高等学校)が発足しました。この組織は日本で初めての公立の高等学校音楽教育機関でした。その延長線上に、1952年、同じく公立の音楽短期大学が京都市に設置され、これがスタートとなって、その後、1969年に美術大学と合併して京都市立芸術大学音楽学部となり、今日に至る発展をしてきました。1952年から数えて、今年は創設60周年を迎えます。そして、近年になって、大勢の当大学の卒業生が当大学の教授、准教授、専任講師・非常勤講師として教鞭を執り、京都独自の教育カラーを出せる状況になってきました。卒業生、大学教員、学生と共に、揃って、この60周年を祝いたいと思います。

60周年といえば、人間にとっては還暦の祝いとなるのですが、単にお祝いをして済ませるのではなく、この機会を生かして、今年から独立大学法人となった京都市立芸術大学と、卒業生・学生の同窓会である真声会、加えて、

大学の教育後援会、と協力して、大学の理想とする教育理念を実現する話し合いを深めていくことが大切だと思います。60周年を機会に、親密な交流の出発点にすべきだと思っています。そして、記念行事として、60周年記念式典、記念講演会、記念演奏会などを行い、この大学の存在を社会に対してアピールすることも行われます。特に記念演奏会として、東京藝術大学との交流演奏会が、東京で行われます。また年末には、特別記念定期演奏会も行われます。これらの演奏会は、教育的にも、社会的にも大変意義のあることで、真声会としては、これらの60周年の記念事業全てを、積極的に支えていきたいと考えています。

世界を見渡すと、アラブの春といわれる社会変革が起き、ギリシャに端を発する経済不安があり、日本では、政治改革の名のもとに、文化行政が疎かになってきています。人間の生活の中で、最も大切なことは、精神生活の充実だと思います。われわれ音楽に携わる者、芸術に携わる者が力を合わせて、より多くの人々の精神文化の豊かさを実現するための、幅広い活動を行っていく必要性を強く感じております。共に前進を致しましょう。

京都市立芸術大学音楽学部60周年

音楽学部長 山本 毅 (24期打楽器)

本年、発足60周年の記念の年を迎える京都市立芸術大学音楽学部は、歴代の卒業生の皆様によって60年に渡って受け継がれてきた輝かしくも大いなるバトンを受け取り、今日も走っています。同窓会真声会の皆様の日頃のご支援とご協力に感謝いたしますと共に、とりわけ京都市立芸術大学創立130周年におけるご支援ご協力に心よりの感謝を申し上げます。大学院オペラ「椿姫」、卒業生、京都市民の方々との合同演奏による記念定期演奏会でのマラー「復活」など大掛かりな催しを持つことができました。

この60年の歴史を顧みて、先輩方をはじめ先人たちの情熱とご労苦がどれほどであったかに思いを馳せるとともに、現在大学に生きるものとして、未来へ向けての責任の重さに襟を正さねばとの思いです。その記念の年に、京都市立芸術大学は公立大学法人として新しい体制に生まれ変わりました。体制が変わるとはいえ教育研究の本質は、変えてはならないものです。音楽の研究・教育に早道はなく、日々の地道な研鑽の積み重ねの重要性は、たとえ時代が変わろうとも体制が変わろうとも守ってゆく覚悟です。営々と重ねら

れてきた教育研究の伝統と成果を基盤として、さらなる発展と成長させてゆくべく、教員学生ともども決意も新しく、日々新たな創造に向け奮闘しております。

音楽学部・音楽研究科では60周年にあたり、

- 11月1日 東京藝大との合同オーケストラ演奏会(東京藝大奏楽堂)
- 12月2日 60周年記念式典
- 12月9日 記念定期演奏会

など様々な催しを予定しております。また、国際的なゲストをお招きしてのワークショップ(11月)や交流演奏会(12月)の計画も交渉立案中です。

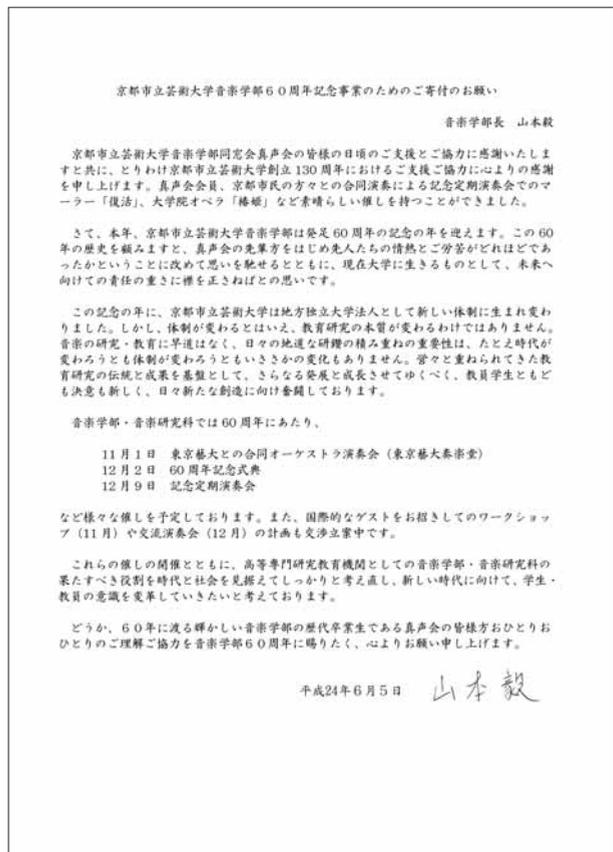
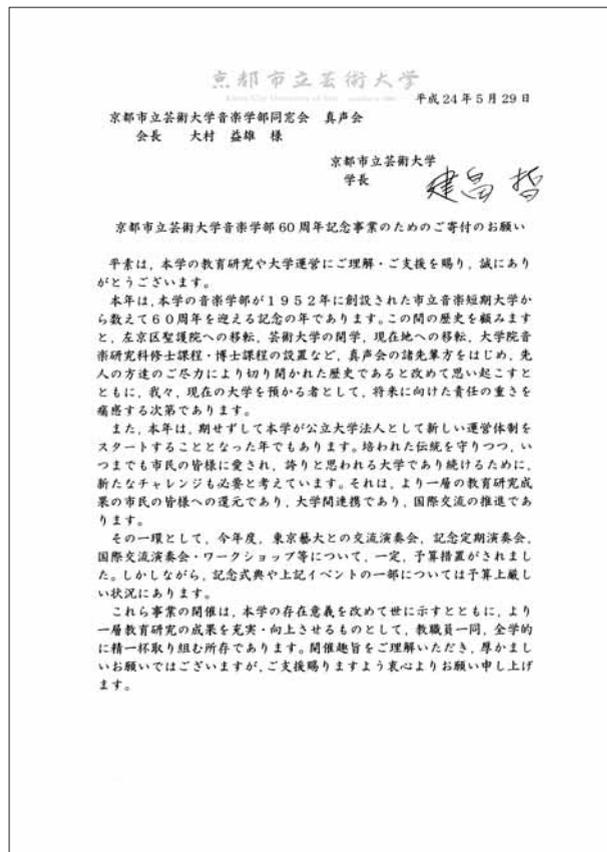
これらの催しの開催とともに、高等専門研究教育機関としての音楽学部・音楽研究科の果たすべき役割を時代と社会を見据えた変革に着手し、新しい時代に向けての更なる意識の向上に、教員・学生ともども思いをひとつにしていきたいと思ひます。60周年のこの一年を寿ぎつつ、新たな京都芸大音楽学部をよろしくお願ひ申し上げます。

京都市立芸術大学音楽学部60周年記念事業への寄付のお願い

今年、音楽学部は60周年を迎えます。大学では、さまざまな記念事業を予定しており、この度、建島学長、山本学部長より、記念事業のための寄付のお願いが真声会にありました。

主に、東京で行われる東京藝大との合同演奏会、記念定期演奏会や、記念式典などに対するの援助のために、会員の皆様にご寄付をお願いしたく思っております。

今回の会報に、建島学長、山本学部長、大村会長からの寄付をお願いする文書を同封いたしました。主旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。



《会員だより》

暑くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。2008年の夏に発行された会報46号から始まった「4年で100人《会員だより》」ですが、今号で計111人となりました。1年遅れにはなりましたが、目標の100人を達成出来た事をご報告するとともに、寄稿いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後も「8年で200人」「12年で300人」を目指していきますので、まだ寄稿いただいていない方は、ご協力よろしくお願い致します。 編集委員一同

* * * * *

1期声楽 熊谷 房子

緑に囲まれた太秦の鳥井先生のお住まいに初めてレッスンに伺ったのは高三の夏休み、蟬の大合唱が木立にしみ入る昼さがりでした。その時から私の歌人生が始まり、以降、暗中模索、五里霧中のハードルをいくつも越え、苦闘の日々が続きました。昭和29年4月、希望に胸を膨らませ、特急つばめ号に乗り一路東京へ。最速でも8時間の旅でした。幸い、東京都公立中学校音楽教諭に就けたものの、教師の仕事には熱が入らず、週一で、伊藤 武雄先生のレッスンに通えることが唯一の喜びであり楽しみでした。そんな或る日のこと、同期ピアノ科の奥田博子さんが四谷一中に勤務されていると知り、早速逢って意気投合、狭いアパートで音楽談義に明け暮れたものでした。しかし、やがて彼女も結婚して帰京、また淋しくなっていました。会員相互の研究と親睦を目的として真声会関東支部が設立されたのは平成8年6月。この日をどんなに待ち望んでいたことでしょうか。早速トレ・カンパーネ（女声三部）が発足、京都弁がとび交うほのぼのと温い雰囲気の中なかで心癒されるひとときでした。それにしても、15期の青谷氏を指揮者にお迎え出来たことが何よりの幸運でした。多忙なビジネスの中なかでトレ・カンに懸けられた情熱、温厚誠実なお人柄、そして、持ちまへの豊かな音楽感性で導いてくださった当時が懐かしく偲ばれます。「今年も歌うことが出来て感謝しています。」こんなセリフが自然に出てくる歳になってしまいました。関東支部の優秀な後輩に支えられ見守って頂いているお陰です。それでも僅かに照らしてくれている明かりを頼りに一歩一歩前進しながら、今まで培ってきたものを財産として、熟年の味が表現出来るよう、そして、少しでも聴く人の心に響く歌が歌えればと願っています。これが私の生き甲斐です。そこには、歌と出逢える感動があるからなのです。

* * * * *

13期ヴィオラ 有馬 佳寿子

卒業してから早46年が過ぎました。すぐに京響に入団しましたから退団して6年目になります。退団の時、今まで京響ではなかった初めての事がありました。1つ目は40年間も在籍していた事（その頃は京芸も短大だったのと卒業生で女の方も入団しておられても直ぐお辞めになるという事でした。）2つ目は指揮者を、初代のチェリウス（堀川音楽コースの時から）退団時の大友直人氏迄全ての方々と演奏したと言うのが私で最後だった事。3つ目は私が48歳でおばあさんになり、それが日本のオーケストラの現役で弾いている最初でした。（これは西日本で、東日本でも聞いていないので、もし違っていたら教えて下さい。）と、色々記録？をだして退団しました。私はとてもいい時代を送ったと思います。学生の頃は、ヴィオラ奏者が少なかったので、アルバイトで大フィルや関西の大学ヘトラに行ったりクラシック以外のステージに出演したり、その頃はまだ映画のバック音楽を京都の撮影所で録音していたので大映や東映へ行ったりもしました。その他個人レッスンをしたりと学生なのに音楽でアルバイト料が入っていて、京響へ入ったら給料がバイト料より安いのでびっくりしました。それから西日本には、オーケストラは大フィルと京響しかなかったので卒業と同時に入れた事はラッキーでした。京響はその時出来て10年目で、これから上へ上へと登って行く時でした。音大ではやった事のない色々な曲をやり、今まで名前しか知らない有名なソリストと共演したり、ソ連の3大バレエ団が毎年夏に1ヶ月近く入れ替わり立ち替わりで10年以上続いたのでチャイコの三大バレエ曲はその時身体に叩きこ

まれたと思っています。何時も好い事だけでなく、やはりオケ内での人間関係そして育児家事と今思えば大変でしたが色々な人々の支えと励ましで無事人生の一区切りが出来たと思います。その後の事は、又の機会があれば書いてみたいと思います。

* * * * *

16期フルート 竹林 秀憲

近況報告

京都市立音楽短期大学を卒業したのはいつだったか、必死で記憶を手繰り寄せています。あっそうそう、確か1969年です。思い出しました。岡崎の講堂(?)での卒業式でした。打楽器専攻の奥村隆雄君が答辞を、僕が記念品目録を読みました。記念品は何だったか忘れしました。いい加減なことで申し訳ありません。

当時、四条河原町からタクシーに乗り「音大まで」と言うと、運転手は「知らん」。「武徳殿の……」、「わかった、わかった。あそこ、大学でっか？」1学年約40名、専攻科約20名、全学で100名余の小さな大学でした。私立の音大は無理な貧困家庭の御子息。芸大を落ちた奴。親を必死で説得して、2年なら大学進学を許してもらえた女子。何となく来た奴。などなど個性的な学生ばかりでした。そんな学年でしたので、おとなしくしている訳がありません。学生自治会活動。大学当局との団体交渉。しょっちゅう大騒ぎです。第1回学園祭、第1回演奏旅行は我々の学年が中心になって行いました。現在も続いていると聞いて、嬉しく思います。

1972年に同級生達と創設した京都フィルハーモニー室内合奏団を、2010年に定年(62歳)退職しました。縁あって現在、相愛大学にお世話になっています。今年4月、音楽学部学部長を命じられました。予想以上の仕事量に四苦八苦しています。私立大学は、少子化のみならず取り巻く環境悪化で運営に苦労しています。まさに大学の価値そのものが試されているように思います。このような時こそ、教育の原点に返って大学の役割を見つめなおし、音楽大学・芸術関係大学の必要性を世に訴えなければならぬと考えています。

最近、簡単に芸術団体を葬り去ろうとしている動きが気になります。随分前ですが、パントマイムのヨネヤママコさんのリサイタルが、京都でありました。無音の中での演技は、不思議な世界を創りだし、客席を魅了していました。ところが、幼児の泣き声で、その世界は一気に崩れ去りました。演目終了後のヨネヤママコさんのコメントが忘れられません。「一輪の美しい花は、無邪気な子どもの可愛い手でも簡単に折ることが出来ます。美しいものは、弱いものなんです。」日本をダメにしたと言われる団塊の世代の名誉を挽回すべく、あと一踏ん張り頑張ろうと思っています。

* * * * *

18期声楽 西谷 真理子

京都市立芸術大学を卒業してからもう40年？
大学生活を満喫してからなんとか卒業し、幸運にも教職の仕事を得て私の人生が本格的に歩みを始めました。しかし教師という仕事の重大さに押しつぶされそうになりながら、本心は青息吐息で毎日を送りました。“いたづらに人の師となるなかれ”の思いが心にのしかかり、悩みが尽きず思い至った結論は、声楽が大好きで練習が大好きな私を見てもらおう。そして歌うことが好きなみんなを集めて楽しく高校生活を送ってもらおう。ということでした。研修ということでレッスンを続けることを許され、一年間の留学もさせてもらい(休職扱いということで…)私はそこで声楽の本質というか喜びを学ぶことが出来ました。職場にも感謝の思いでいっぱいです。30年間私は本当に楽しく仕事をさせていただきました。退職後もコーラスのヴォイストレーナーをしたり個人レッスンをさせてもらったり、小学校で歌唱指導させてもらったりデュエットのユニットを組んだりクラリネットとピアノと歌のユニットを組んだり、毎日楽しく過ごしています。私の人生のルーツにこの京都市立芸術大学。そして楽しく声楽を学ばせてくださった鳥井晴子先生です。ほんとにささやかな私の人生だけれど、そばに音楽があつてよかった。あと少し

だけ音楽と一緒に生きさせていただけます。

* * * * *

27期ピアノ 曾我 尚江

岡崎から杏掛へ……ちょうどキャンパスの移転のころ、私は大学時代を送りました。ピアノのペダルは穴ぼこだらけ、寒い日はみんなでストーブを囲んで暖を取り、渡り廊下ではだれかがいつも練習している、そんな不自由だけど人の顔がよく見えていた平安神宮横、移転直前の旧校舎が、今無性に懐かしい！

卒業してからの私のささやかな音楽生活はさまざまな人との出会いの連続でした。そんな中でも、最近特にしみじみ思い出すのが、縁あって訪れたエストニアでの体験です。もう20年も前、ソ連が崩壊してエストニアは独立を果たしたものの経済的自立に悩み、さらに、チェルノブイリの事故の後遺症に苦しんでいた混乱の時期の出来事です。ホストハウスのご夫婦がホルンのコンサートに案内して下さいました。ロシアの若い奏者による無伴奏の演奏、異国で緊張状態だった私ですが、名前も知らない彼の音にたちまち陶酔、無重力状態にあるような不思議な感覚に陥りました。その時、後ろの座席の方が、「彼の芸術は政治を超えている」とささやいたのです。音楽の持つ圧倒的な力を実感して身震いする思いでした。また日を改めて、今度は市民のダンスパーティーに連れて行ってもらいました。突然乱入してきた黒髪の日本人を、10代の少年が「キートス！」と親しげに迎えてくれて、中では老若男女がくるくると舞い、それは和やかにパーティーを楽しんでいました。感動したのは、何十人ものご年配方が、肩を寄せ合い右に左に揺れながら歌い始めた光景です。社会が不安定な状況であっても、音楽を日々の営みの中でしっかり享受できている……社会にそうさせる基盤、そう感じさせる空気があるのです。今の日本はどうでしょう？

ネット上でのつながりが社会を大きく変えてしまうような時代ですが、やはり人と人が向かい合って、空気を通じて伝わっていくものを大事にしたいと感じます。

* * * * *

30期声楽 黒田 博

ちょっとした近況報告を。昨年末から今春にかけてモーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」とワーグナーの「タンホイザー」に出演いたしました。「ドン・ジョヴァンニ」は東京二期会・びわ湖ホールとライン・ドイツ・オペラの共同制作公演、「タンホイザー」は二期会やびわ湖ホール、京響・神奈川フィルほかの共同制作でサンディエゴ・オペラのプロダクションをお借りしたものです。この10年ほどの間に二期会は海外の様々なオペラ劇場と提携公演や共同制作を行うようになり、欧米の最先端の演出によるオペラ公演が日本人キャストによって繰り広げられる時代となりました。

今回の「ドン・ジョヴァンニ」の演出はカロリーネ・グルーバーという、ウィーン国立歌劇場をはじめヨーロッパの劇場で活躍する女流演出家によるもので、「ロッキー・ホラー・ショウ」のような舞台。それぞれの出演者による強烈な心理ゲームを展開させ、倒錯した性の世界を描き出して賛否を巻き起こしました。

「タンホイザー」の演出はミヒャエル・ハンペ氏。カラヤンと共に20世紀のオペラ界をリードしてきた正攻法の演出家で、今回の演出も全くの正攻法。私が演じたヴォルフラム役の第3幕「夕星の歌」にいたるシーンを演出しながら、「このシーンがオペラの、すべてのオペラ作品の中で、私が一番愛しているシーンだ」と私の手を握り、目を潤ませながら演出して下さいました。いずれの舞台もびわ湖ホール声楽アンサンブルとの共演で、そのメンバーの中には京芸の後輩がたくさんいました。滋賀県という日本の一地方県のびわ湖ホールが世界の最先端と繋がり、オーソドックスと先鋭の両極を行う勇氣を持っておられることに敬意を表しつつ、アンサンブルのメンバーにおいてはオーソドックスの重要性をまず知り、型を知ればはみ出せるということを読んで、世界に羽ばたいていただきたいと思った次第です。

* * * * *

32期ヴァイオリン 出口(谷山) あけみ

結婚後あまり演奏活動をしていない私に何故原稿依頼？と戸惑いつつも、順番が当たったものとして振り返りながら書いています。卒業後は学生時代の延長で、自宅でヴァイオリンを教えながら京響や京都バツハゾリステン等関西のオケ、室内合奏団でヴィオラのエキストラとして奏していました。また、小学校の学校公演を中心に活動するグループを同級生と立ち上げNHKやオペラ界で活躍している歌手の方々と共に、体育館でコンサートをして回りました。芸人顔負けのトークやパフォーマンスにどこの小学校でも笑いの溢れる楽しいコンサートでした。メンバーの仲の良さが乗りのいいアンサンブルとなっていました。また当時の私にとって新企画の一つにヴァイオリン教室の子どもが誰でも参加出来る「ゆめオーケストラ」発足がありました。発表会の最後を音楽物語で飾る、という楽しい企画でした。ヴァイオリンを始めて間もない生徒も開放弦で奏ける第3ヴァイオリンのパートを作り参加する喜びを味わって貰いました。スコア譜作製からパート譜作製まで、京芸の現准教授の中村典子さんと全部手書きで、頭から湯気が出る程の徹夜作業で作りました。管楽器やコンマスは京芸の仲間、ハーブのパートは姉にピアノでと協力を頼み、第一回目は「ピーターと狼」第二回目は「白鳥の湖」をいずれも超ダイジェスト版ナレーション付き(台本も手作り)で演奏、子ども達の背景画も加わって発表会の最後を飾りました。このオーケストラは結婚と共に解散となりましたが、その当時の楽しかったことを年賀状に書かれてあると、一生懸命やってよかったと励まされます。結婚までは地元の音楽家協会での室内楽コンサートの機会が多く与えられ有難いことでした。結婚後は大きなお腹でブランデンの5番をヴィオラソロで奏いたのを一区切りとして、暫くは子育て中心の生活となりました。お腹の大きかった1995年1月5日西宮北口から現在の愛媛県新居浜市に引っ越して来ました。阪神淡路大震災の12日前でした。まさかの出来事に只ただ涙を流す毎日を送りました。神様の憐れみによって震災から逃れさせて頂いた者の役目を考える日々でもありました。遠く離れていて何も出来ない中たった一つ出来ることは神様に祈ることでした。お世話になった牧師夫妻、教会員の皆さん、家族を亡くした友人の為、とにかく神様の最善がなされるように祈りました。この震災から世の中の動きは随分変わりました。演奏家にとっても厳しい時代に入ったのではないのでしょうか？他所から来た震災支援のボランティアコンサートが地元の音楽家の仕事を却って奪うことになってしまったり、自分も東京メンバーと参加した後、そのことを知り自責の念に悩みました。真の支援とは何か考える日々でした。長男が小学校に入る迄は細々ながらも教会や幼稚園でコンサートをしました。二男三男と生まれ、幼稚園、学校、PTA自治会と行事、役が増えるに連れ、音楽活動からはどんどん遠く離れ、年に3~4回程のボランティアコンサートしかない生活が12年程続いていました。ところがついにこれが復帰の第一歩になるのでは？という大きな仕事が舞い込み5月26日27日に終えたばかりです。まだ興奮冷めやらぬその公演は、新居浜市の偉業を成し遂げた実在の人物を歌劇で紹介するという市制75年を記念する行事の一つでした。5年の歳月を掛けて取材し書かれた台本と歌を素に市民オペラ発足となりました。初め歌の好きな二男三男を参加させる只の保護者だった私が当初予定になかったオーケストラに参加することになり、本番1週間前から編曲の一部書き直し、パート譜作製等、20年前に戻ったかの如く産みの苦しみに立ち会いました。オケメンは新居浜市内では揃わないので、九州、岡山、東京と各地から集められ初めはなかなか音が揃わず大変。改めて京芸の仲間とのアンサンブルが懐かしく思い出されました。息を吸えば自然に次の流れが分かり合えるのは同窓生ならではですね。しかし、その壁を乗り越え、直前までバラバラだった音がG.P.に向かうにつれまとまって行き、本番は皆が一丸となって演奏しました。正に奇跡のような仕上がりに、演奏者も観客も感動しました。勿論、都会の演奏会とは比べものに成らないレベルでしたが、初演としては大成功でした。次は7月14日に東京でハイライト公演が予定され、私達親子も参加します。ずっと燻っていた音楽への思いが今、熱く燃えて来ています。やはり、音楽は人をひとつに結びつけていくものなのですね。

* * * * *

43期作曲 佐伯 佳乃

現在、私は、司法書士として活動しています。業務内容は、不動産登記、商業登記、成年後見業務、相続、遺言、簡易裁判所訴訟代理関係業務など行っています。

大学を卒業後、契約について少し勉強してみようと思い、法律の勉強を始め、司法書士試験合格後、研修を受け、平成17年に司法書士登録をしました。

司法書士業務を始めて、代理人としていろいろなことを経験させてもらっています。

例えば、不動産(土地建物)の売買に立ち会うことや会社の設立のお手伝いをする、公正証書遺言の作成に立ち会うこともあります。また、特別養護老人ホームをいくつも訪問して、入居申込みをすることもありました。最近よくテレビCMにもある債務整理なども引き受けることもありました。

さまざまな場面に立会い、自分自身の人生だけでは経験できないことをし、充実した日々を過ごしています。

* * * * *

51期声楽 中村 征司

私は現在、小学校の教師をしています。今年度は音楽専科をしています、去年までは学級担任をしていました。学級担任ということですので、もちろん国語や算数、体育なども教えていました。皆様の中にも音楽専科として小学校に勤めている方はいらっしゃると思いますが、京芸卒で小学校の学級担任というのは自分でも異色だと思っています。小学校教諭免許は京芸を卒業してから取得しました。

京芸の学生だった当時は、「卒業したら中学か高校の非常勤をしながら音楽活動していきたいなあ」なんて思いながら過ごしていたので、まさか数年後に自分が九九やスイミーの物語を小学生に教えることになるとは夢にも思いませんでした。

小学生と過ごす毎日は、日々彼らの成長を感じることができます。初めて逆上がりができる、一輪車に乗れた、25m泳ぎ切った…大人からすればなんてことのない事です、「先生！初めて〇〇できたよ」と大喜びで駆け寄ってくると、こちらまで嬉しくなってしまう。

これから成長する無限の可能性を秘めた子どもたちを見ていると、それに関わることができる教師という仕事を楽しく感じています。子どもたちと毎日を過ごしなが、少しでも音楽が好きになってくれるようお願いながら、毎日教壇に立っています。

* * * * *

52期作曲 山口 友寛

京都芸大卒業してからのこの2年間、コンピューターによる作曲技術の必要性を感じ、DTMと呼ばれる商業音楽をベースにした作曲法を学んできました。そこでは曲作りのほか、雷音や怪獣の鳴き声などの効果音の作り方、映像への音の当てはめ方など新鮮なことの連続で、ジャンルを超えて音、音楽全体へ視野が広がる傍ら、クラシック音楽の素晴らしさを再認識する機会にもなりました。

現在は後進の指導を行うほか、作編曲活動、商業音楽関係の活動やお仕事もさせていただいており、幸運にもCDが発売されたものやスマートフォンのアプリに採用していただいたものもあります。

今後はクラシック音楽関係の活動はもちろんです、行く行くはそこにコンピューターによる音、音楽制作、商業音楽を学んで得た知識、技術も組み込んだ活動も展開していきたいと考えています。

* * * * *

52期作曲 岩川(朝香) 智子

大学院を修了して早2年。あつという間だったような、そうでないような、不思議な時間感覚に襲われています。

在学中より「朝香智子」という名前で鍵盤奏者として活動しておりまして、

最近ではメジャーアーティストなどのサポートキーボーディストとして関西を中心に西へ東へと出没している毎日です。

そして、自分がメインとなる活動としては、昨年11月に「INUUNIQ(イニューニック)」というバンドを結成し、現在6月に行うレコーディングと主催イベントの準備の真っ只中におります。現状をざっくりと書き記してみましたが、ここに到達するまで本当に色々ありました。中でも精神的に一番辛かったのは、学内での作曲と学外での作曲に対する、自分の中の意識のギャップでした。

作曲専攻生として学内で発表する作品を作る時は「より緻密に！アカデミックに書かなくては！！」と自分を追い込み、また学外でのLIVE活動で演奏する曲を作る時は「より聞き手に優しい曲を！」というそれぞれの意識が強く働いてしまって、中村典子先生のレッスンに行く度に延々と悩みを吐露しては、曲を書くのが怖いと嘆いてばかりいました。(今思えば、なんて表面的なところで悩んでいたのだろうと、少々懐かしくもありますが……)

先生はそんな私をいつもなだめて下さって、悲観的になっている私に「曲を作るのに正解や間違いはない。自分が思ったとおりに書きなさい」と背中を押して下さいました。あの時の言葉があるからこそ今の私は曲を作り続けていられるのだと思います。

そんな私も1年前頃から、レコーディングやライブで演奏する楽曲のストリングスアレンジやオーケストレーションをするようになり、ようやく在学中に学んだものと自分のやっている事が繋がる実感をもてるようになりました。徐々に楽曲の編成を大きくしていきたいと思っておりますので、その時は皆様是非お力を貸して頂ければと思います！

* * * * *

54期作曲 高橋 侑子

大学を卒業してから実家のある宮城に戻りました。本当は戻るつもりはありませんでしたが、いろいろな事情があり、そうすることに決めました。

あれから3年以上が過ぎ、大きな悲しみもありましたが、そんなときに心配してくださり、手を差しのべてくださった京芸の友達、先生方にはとても感謝しています。電話やメールを頂いたり、震災の直後には支援物資を送ってくださったり、避難所や学校でコンサートをしよう！と遠くから駆けつけてくださったり…。あのときは、目の前のことで精一杯で、音楽が人々の支えになっているのか、必要とされているのか、とわからないままでしたが、今思い返してみると本当にやって良かったと思います。今は、一人でも自分を必要とさせていただいている方がいるのなら、精一杯出来ることをしていきたい、と思っております。

* * * * *

55期声楽 永野 歌織

大学を卒業し、丸2年が経ちました。私は現在、大学院を同じ年に卒業した姉(永野伶実・53期フルート)と演奏活動を行っており、ソプラノとフルートの為に作曲された、まだまだ世間に知られていない邦人作品の演奏に尽力しております。また、目でも楽しんで頂けるよう着物での演奏にも取り組んでいます。先日は、春と桜をテーマとした演奏会で、ピンクとオレンジの着物に鍵盤柄の帯を合わせました。帯が歌の妨げにならないよう、着付けの先生と試行錯誤を重ね、今では自分で着物を着てお出かけできるようになりました。音楽教室の講師を目指し、声楽を始めた私ですが、こうして演奏活動を続けられることをとても嬉しく、また大切に思っています。

実家の音楽教室のレッスンでは、こどもを座らせるのに一苦労することもよくありますが、発表会で緊張で震えながらも一生懸命に演奏する生徒の姿に胸を打たれました。だんだんとレッスン中の会話も弾むようになり、生徒たちの笑顔が何よりの元気の源になっています。大学や先生方から学んだ、音楽を楽しむ心を伝えていくことが、私の夢だと思っています。

今号の会員だよりには13名の会員の方より寄稿いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

真声会 各支部活動報告

京都支部

去る5月20日に京都支部総会を開催し、総会に続いて蔵田裕行先生に「幻の国歌《われら愛す》」と題して、「君が代」誕生に至るまでの経緯、1953年に新国民歌として公募で作られた「われら愛す」の混声合唱の貴重な楽譜を添えて、その素晴らしい歌の誕生についてのお話を頂きました。引き続きの懇親会では、和やかに食事と歓談をしながら更に会員同士の心の輪が拡がり、実りの多い1日になりました。

今年は役員改選の年にあたり、昨年の半ばに支部会員の皆様に今後の支部活動についてのアンケートを実施し、役員としてご協力頂ける方をお尋ねしましたが、残念ながらなかなか期待通りには行かず、一部交代を除いて、ほぼ今の役員体制のままで、力を合わせて頑張っていこうという事になりましたので、これからまた3年間よろしくお願ひ致します。

2012年度からの役員の紹介をさせていただきます。

*支部長：山田晏子(10期声) *副支部長：青谷哲也(15期声) *会計：稲葉由己子(22期P) 宮崎友香子(38期P) *会計監査：大西多恵子(10期声) 光野文代(14期声) *庶務：早田彩子(18期P) *広報：大須賀留美子(13期声) 大谷由美子(32期声) 高畑園子(33期声) 谷口佳奈香(47期P) ◇HP管理：立松佐喜子(20期P)

*企画：脇坂幸江(24期Hr) 山本有紀(34期Cl) 木下亜子(40期P) の15名です。尚、7月中旬に京都支部報を発行します。また9月16日(日)には府民ホールアルティにおきまして、第29回プロムナード・コンサートを開催致します。皆様のご来聴をお待ち致しています。

支部長 山田晏子(10期声)

滋賀支部

滋賀支部では5/20(日)に支部の総会を開催しました。(会場は石山にある音楽仲間のたまり場的なレストラン&バー「イージーオール」、会場費は無料です。)

16期から55期までの13名で、議案を審議しました。また、2年毎の役員改選にあたり、現役員は全員留任し、新たに55期奥村夏海さん(マリンバ)に加わっていただきました。役員は以下の皆さんです。

支部長 杉中 博(19期Tp) 副支部長・事務局 井出 悟(20期P) 会計 水野 正裕(21期Tb) 広報 福嶋あかね(43期声)、桑名しのぶ(47期Vn)、大角多佳子(48期Fg)、奥村夏海(55期打) 研修 小松文郎(21期Vn)、田村由美子(36期声)、角間秀子(38期P)、小川絵理(52期Cl) 会計監査 椿 久美子(5期P)、奥村隆雄(16期打)

事業計画のうち、大きな行事である支部演奏会は、11月10日(土)しがぎんホールで開催する予定です。(ちなみにこの演奏会にかかる総費用は約30万円です)若手から中堅・大先輩までの、ソロ・アンサンブルを予定しています。

また、議案以外の事項として大学創立60周年にかかわる企画に対するの協力のお願ひや、本部の活動についても説明を行ないました。

総会後の懇親会では滋賀の音楽事情や音楽教育について等、様々な意見交流をしながら、楽しい時間を過ごさせていただきました。

支部設立から24年。細々ではありますが、地道に活動していこうと思っています。

支部長 杉中 博(19期Tp)

大阪支部

<http://senri-music.com/shinseikai-osaka/>
コンサートと総会

今年度の総会は、コンサートと総会をドッキングして、5月12日(土)「エル・おおさか」(天満橋・府立労働センター)で開かれました。

まず、1時30分から「フレッシュ・サロン・コンサート 2012」と題して、地階の「プチ・エル」で開かれました。スタジオ風のこぢんまりとしたホールですが、スタインウェイD274が備えられています。

出演と曲目は、歌のステージ＝荒巻幸絵(56期sop)、沖正樹(55期ten)、pf 早川藍香(神戸女学院卒)で、ヴェルディの歌劇『椿姫』から「乾杯の歌」ほか。アンサンブル＝中島麻弥子(54期mez)、富永久瑠美(54期vn)、笹まり恵(54期pf)で、J. S. バッハのマタイ受難曲から「主よ、憐れみ給え」、岡野貞一《故郷》ほか。休憩の後、ピアノ独奏＝金澤麻衣と中村真弓(共に57期)が、それぞれ、ショパンのバラード第1番と同第4番を、最後は、伊藤咲代子(53期cl)、吉田彩華(53期pf)が、プーランクの「クラリネットとピアノのためのソナタ」でした。公開でしたから、当日券を求められるお客様もおられて、70余名の聴衆は、澁刺とした、しかも確かな演奏に大きな拍手を贈っていました。入場料ワンコイン500円。

続いて、会場を10階の宴会場「松」へ移して、3時30分から、年次総会を開きました。出席者は、1期から56期までの22名。

まず、大村支部長から「今年は母校の音楽学部が60周年を迎え、内外に存在を知ってもらうチャンスとして、演奏会をはじめ各種記念行事が計画されている。真声会としてもこれに協力して、寄金を募りますのでよろしく！」とあいさつ。お茶とケーキ、サンドイッチを囲みながら、今終わったコン



サートの出演者を囲んで、感想を述べながら出席者同志の親睦を深めました。年配の卒業生からは、若い人たちの演奏はさすがです、と感嘆の声しきりでした。

議事では、一年の経過、会計、監査の報告、2012.13年度世話役が提案通り承認され、支部長に大村益雄、副支部長に金森重裕・大富栄里子、事務局局長に樋口博行が選出されましたが、役割分担は近く世話役会を開いて決めます。

意見交換では、コンサートをやりたい！という声が多く出されました。

新しく選出された世話役＝大村益雄(1期作) 井上惇子(1期pf) 竹内恵子(5期vn) 金森重裕(6期cl) 大西多恵子(10期声) 中島慈子(10期声) 中林節子(12期声) 飯田真基(17期vn) 柴田千恵子(18期声) 森池日佐子(18期声) 樋口博行(27期pf) 大富栄里子(28期pf) 小崎恵理子(30期vn) 康 瑛(31期声) 釋まなみ(32期声) 西川香代(45期cl) 住本紗恵(51期声) (文中、敬称略)

副支部長 金森重裕(6期Cl)

中部支部

新緑の風がさわやかな5月20日(日)14時30分より、名古屋市中区「長円寺会館」にて「2012年度中部支部総会」が開催されました。

ご多忙の中ご出席下さいました16名(委員含む)の方々、心よりお礼申し上げます。中部地区182名からなる会員中、51名のお返事、内委任状40通をいただき、近況報告も多くお寄せいただきました。

山本家寛氏(6期作)の議長のもと、支部長・会計より2011年度活動報告、会計報告、2012年度活動方針、予算案の説明がなされ、審議を経て承認を得ることができました。今回の総会は、支部会則にもありますように初めての委員改選の年度でもあります。候補者を記名した投票用紙に信任・不信任の印しを記入していただいた結果、支部長/中島百合子(19期作)、副支部長/井上正彦(16期Tp)、和泉正憲(19期打)、広報/野々口義典(23期Hr)、村上栄子(31期作)、委員補佐/米田一幸(33期Tp)、池村明子(48期Vn)、会計(兼任)/中島 百合子、会計監査/近藤義良(2期作)、中西俊哉(31期Vn)の方々に決定し、承認されました。殆どが再任となりましたが、静岡県在住という遠方にもかかわらず、広報委員として村上さんに加わっていただけたことで会員の皆様にも新風を感じていただけたことでしょうか。緊張がときほぐれる恒例の「ミニ・コンサート」では、米田一幸委員に「I Got Rhythm」などジャズナンバーによるトランペットのソロ演奏をしていただきました。

総会終了後の楽しみ、13名参加による懇親会も大変盛り上がりしました。56期の会員も駆けつけて下さり、若い方にも気軽に溶け込んでいただける親しみある雰囲気がようやく出来てきたように思います。

地下茎のように少しずつ伸びゆく会員同士の繋がりがやがて芽を出し、花を咲かせることを願って共に歩んで行けたら、と真声会60周年記念の年に思うこのごろです。

支部長 中島百合子(19期作)

関東支部

昨年関東地方は地震、原発事故、春の計画停電、夏の節電と、これまでに経験したことのない試練に次々と見舞われました。先の見えない不安な日々の中、なにものにも左右されない芸術の力を実感した年でもありました。クリスマスには、新宿アートコンプレックスにおいて京都芸大美術学部版画研究室・出原司氏と音楽学部作曲研究室・中村典子氏の共同企画による復興支援チャリティーコンサート「冬の祈りの日に」が開催され、初めて本部の方々と関東支部会員が共演させていただきました。出原司さんと学生の皆さんの版画に囲まれ、藤原三千代さん(3期作)、上田益さん(25期作)、平田あゆみさん(29期作)、石若雅弥さん(50期作)、久場夏子さん(55期声)、高橋侑子さん(54期作)、藤原麻梨子さん(53期作)などの作品を中心に声楽、ピアノ、邦楽、コーラスと様々な演奏が繰り広げられました。被災地の鎮魂・復興を願うアーティストとお客様が思いを一つにできた、年の終わりにふさわしい祈りの一日でした。そしてこの日皆様より寄せられた寄付金及び、版画作品の売上金の10%、合わせて105,000円は義援金として日本赤十字社に送金されました。

会報Harmony第16号では総会、前年度定演、会計報告の他、高橋知子さん(32期P)の投稿。計画停電の暗闇に美しい星空を見たことから、恒例のピアノアンサンブルdouxのアンコール曲に「見あげてごらん夜の星を」を選曲。この高橋さんにとって意外にも新鮮な経験であった停電が、実際に被災され避難所におられたご友人にとっては恐ろしい記憶となり、「見あげてごらん夜の星を」は聴けない曲になってしまったことを書いておられます。インタビュー記事は仙台フィルの三科清治さん(30期打楽器)。震災の時のご苦労や、なじみの場所が津波でなくなってしまったこと、その中から音楽活動を再開されていった貴重な経験談を伺いました。そして大阪のオーケストラの補助金カットは決して他人事とは思えないということもお聞きし、これからのオーケストラのあり方や、我々一人一人に何が出来るのかを考えさせられました。

5月15日には第17回総会が銀座キハチで開催されました。支部長島津と外次さんからは、大阪のオーケストラ問題、市音の存続問題が提起され、「財政優先にしているのは若い人材が育たない」「大阪だけの問題ではない、今自分たちに何が出来るか探りたい」「子供達の為に地域での音楽普及活動は大事」など様々な意見が交わされました。まず関東支部としては10月に東京、埼玉で行われる市音のコンサートを応援したいと考えています。

事務局 丸山慶子(30期P)

第142回定期演奏会 合唱出演者募集!

2012年12月9日(日)に予定されております、定期演奏会の合唱の出演者を募集いたします。

合唱団は、在學生、卒業生と京都市民により構成されます。卒業生出演者には、些少ですが交通費程度が支給される予定です。以下の内容をよくお読みいただき、どしどしご応募ください!

第142回定期演奏会

演奏曲目 モーリス・デュリュリュフレ作曲 「レクイエム」
 指揮 尾高忠明 (NHK交響楽団正指揮者、新国立劇場オペラ芸術監督、札幌交響楽団音楽監督)
 合唱指揮 石原祐介 (京都市立芸術大学非常勤講師)

練習日程

8/18(土) 19時 音楽高校レッスン室
 オリエンテーション、合唱練習
 8/25(土) 19時 音楽高校レッスン室 合唱練習
 9/ 8(土) 19時 音楽高校レッスン室 合唱練習
 9/15(土) 19時 音楽高校レッスン室 合唱練習
 10/ 6(土) 19時 音楽高校レッスン室 合唱練習
 10/20(土) 19時 音楽高校レッスン室 合唱練習
 11/17(土) 19時 音楽高校レッスン室 合唱練習
 11/24(土) 19時 音楽高校レッスン室 合唱練習
 12/ 2(日) 時間未定 芸大講堂 尾高先生合唱練習予定
 12/ 3(月) 時間未定 芸大講堂 尾高先生(合唱?)
 12/ 4(火) 時間未定 芸大講堂 尾高先生(合唱?)
 12/ 5(水) 時間未定 芸大講堂 尾高先生(合唱あり)
 12/ 6(木) 時間未定 芸大講堂 尾高先生(合唱あり)
 12/ 8(土) 時間未定 京都コンサートホール
 12/ 9(日) 本 番 京都コンサートホール

応募条件

卒業生はどなたでもご応募できます。ただし、音楽高校での練習に3回以上、芸大での練習に2回以上出席してください。また、本番前日の練習と本番当日のリハーサルには必ずご出席ください。

応募方法

メールかハガキで、お名前、卒業期、専攻、住所、電話番号(自宅・携帯)、パートをご記入の上、同窓会室宛にお送りください。

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
 京都市立芸術大学音楽学部同窓会 真声会
 メール shinsei@koua.ac.jp

締め切り

7月31日(火)

会費納入キャンペーン実施中

新名簿及び会員証の送付は会費納入者のみとなります

今年度は京都市立芸術大学音楽学部創立60周年を迎えました。社会的には財政緊縮が取り沙汰され、各音楽団体からの窮状が浮き彫りになってきている昨今ですが、真声会では、4年毎に発行される新名簿(2012年度版)は、現在各卒業生の年度委員各位のご協力を得まして、今年度末までに会員皆様のお手元に届けるために、現在鋭意編纂中です。また楽譜等の購入に特典のある真声会会員証の更新発行(有効期間2013年4月1日~2017年4月30日)も今年度末(2013年3月末)までに実施されます。さらに年2回発行の会報発行・配布や各支部への援助金の支給も含めて、それに付随する業務遂行と事業運営及び社会的にも活動を維持してゆくには、会員皆様方の会費納入が唯一の資金となります。

今年度発行される新名簿を、本来なら現在3000名以上の卒業生全員の相互の繋がりのために、会員全員に配布したいのですが、残念ながら未納の方もいらっしゃる中で、潤沢な資金もない状況で、会費納入者のみに配布する選択をせざるを得ません。そこで、新名簿と会員証の配布は、直近最低2年分の会費納入者のみとさせていただきます。昨年度分と2012年度分納入の方、今年度末までに2012年度分と2013年度分納入の方が対象となります。

なお、会員各位の会費納入状況につきましては、発送封筒の宛名の下に記されておりますのでご確認ください。銀行引き落とし手続きをされている方は、9月に自動的に引き落とされます。なお、会費は、年会費3000円、または、終身会費5万円となっております。

皆さまからの会費をより有効に活用していけるよう、本部役員一同、一層の努力をしてみたいです。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

真声会本部役員一同

京芸だより

～定期演奏会をぜひ聴きにいらしてください～

京都市立芸術大学音楽学部では、第141回定期演奏会を開催します。

今回は、重厚な曲調で有名な マーラー作曲「交響曲第1番(巨人)」に加えて、音楽学部の創設60周年を祝い、ブラームス作曲「大学祝典序曲」を演奏します。

その他、各専攻最優秀者で実施する「定期演奏会ソリストオーディション」にて選出されたソリスト曲「マリンバ小協奏曲」や、プレトーク&プレコンサート開催と、盛り沢山の演奏会となっております。皆様、是非ご来聴ください。

なお、真声会会員の皆様は無料でご入場いただけます。会場受付にて卒業期、専攻、お名前をお知らせください。また、会報内の会員券はどなたさまでもご利用できます。お誘い合わせの上、ご来場ください。

日時 2012年7月8日(日曜日) 午後1時開場, 午後2時開演

会場 京都コンサートホール(大ホール)
京都市左京区下鴨半木町1-26(地下鉄烏丸線「北山駅」1番出口, 南へ徒歩3分)

出演 指揮: 増井信貴(本学教授)
ソリスト: 藤田あや(管・打楽専攻4回生)
管弦楽: 京都市立芸術大学音楽学部管弦楽団

曲目 J. ブラームス: 大学祝典序曲
P. クレストン: マリンバ小協奏曲
G. マーラー: 交響曲 第1番「巨人」

入場料 1,200円(全席自由)

チケット販売 京都コンサートホール(電話: 075-711-3090)
空席状況により当日券も販売します。

主催 京都市立芸術大学

お問い合わせ 京都市立芸術大学教務学生支援室事業推進担当 (075) 334-2204

ベルギーで開かれたエリザベート王妃国際音楽コンクールで、45期の酒井健治さんが作曲部門でグランプリを受賞しました!

受賞曲「ヴァイオリンとオーケストラのための協奏曲」

世界三大コンクールの一つとされるこのコンクールで、日本人の同部門グランプリは35年ぶりだそうです。パリ在住の酒井さんより、コメントが寄せられました。

「京芸を卒業して、東京に殆ど行かずにパリに直接乗り込み、今回この様な賞を頂けてとても嬉しく思います。京芸で学んだ事は今でも強く心に残っており、それがあから今の僕があるのだと思いました。 酒井健治」



真声会会員の コンクール等受賞者の

- 第15回日本フルートコンヴェンションコンクール(平成23年8月20日 びわ湖ホール及びピアザ淡海)
アンサンブル部門 第2位(アンサンブル・リュネットとして)
大学院修士課程(器楽専攻)2回生 森本 英希(フルート)
大学院博士課程(器楽領域)3回生 江戸 聖一郎(フルート)
2001年学部卒業 谷風 佳孝(フルート)
2006年学部卒業 小山 真之輔(フルート)
- 第9回東京音楽コンクール(平成23年8月21日 東京文化会館大ホール) 声楽部門第1位
平成16年度修士修了 声楽専攻 八木 寿子
- 第13回日本演奏家コンクール(平成23年10月14日 横浜みなとみらいホール 小ホール)
弦楽器部門 大学の部 1位なしの2位(文部科学大臣賞)
学部2回生(弦楽専攻) 豊永 歩
- 第65回全日本学生音楽コンクール(平成23年10月24日 ザ・フェニックスホール) 3位
大学院修士課程声楽専攻 2回生 奈良 絵里加
- 第26回摂津音楽祭リトルカメラリアコンクール(平成23年11月6日 摂津市民文化ホール) 入賞・大阪21世紀協会賞
大学院修士課程器楽専攻(弦楽)3回生 江口 純子
- 第21回日本クラシック音楽コンクール(平成23年12月2日 かつしかシンフォニーヒルズ) 声楽部門 大学の部 第5位
学部5回生(声楽専攻) 加藤 裕子
- 第2回クオリア音楽コンクール(平成23年12月24日 茨木市市民総合センター クリエイトセンター・センターホール)
第3位(2位なし)
学部2回生(弦楽専攻) 西本 慶子
- エリザベート王妃国際音楽コンクール(ベルギー 平成24年5月18日) 作曲部門グランプリ
2000年学部卒業 酒井 健治(作曲)

会報53号に訂正箇所が一カ所ございます。人事異動の欄に「日紫喜恵美 専任講師 平23.4.1着任 声楽」の一行が抜け落ちていました。以下訂正し、ご報告いたします。(編集委員)

京芸教員 人事異動

豊嶋 泰嗣	准教授	平22.4.1着任	ヴァイオリン	砂原 悟	准教授	平23.4.1着任	ピアノ
上野 洋子	専任講師	平22.10.1着任	声楽	小濱 妙美	准教授	平23.4.1着任	声楽
松本日之春	名誉教授	平23.3.31教授退任	作曲	日紫喜恵美	専任講師	平23.4.1着任	声楽
三井ツヤ子	名誉教授	平23.3.31教授退任	声楽	中村 典子	准教授	平23.10.1昇任	作曲
神谷 郁代		平23.3.31教授退任	ピアノ	坂井 千春		平23.3.31准教授退任	ピアノ
菅 英三子		平23.3.31准教授退任	声楽	イーナ・メジャーエワ	専任講師	平24.4.1着任	ピアノ
岡田加津子	准教授	平23.4.1着任	作曲	北村 敏則	准教授	平24.4.1昇任	声楽

退任のあいさつ

名誉教授 三井ツヤ子 (声楽)

「今迄数多くの卒業生を見送って来た私が今度は見送られる立場となりました」と、そこまで普通に挨拶をした後、想定外にふいに涙がこみ上げてきて皆を前にして立ち往生だった卒業式の後の謝恩会でのひとこま。格好よく颯爽と別れの挨拶をしたかった私の願いはついぞ叶うことはありませんでした。

その後5月27日には大学の主催で退官リサイタルが北山のコンサートホールで催されました。多忙な中、駆けつけてくださった満席のお客様に迎えられ歌い始めましたが、常ならぬ緊張に覆われあがりになりました。スリルとサスペンスの中、何とか無事終演にこぎつけることが出来たのは、共演者はもとよりひとえに聴衆のあたたかい支援のお陰でした。定年に至る迄の長きにわたり私を支えてくださった皆様への感謝の念で一杯です。この場をおかりして心から深くお礼申し上げます。

さて学生達との思い出は到底語りきれない程沢山ありますが、今日は芸大に赴任して7年目、1992年の夏の思い出を書きたいと思います。当時院オペラが、秦先生の演出のもと蔵田先生指揮で、コロラド大学に於いて林光作曲「おこんじょうり」を上演することになりました。最小スタッフということでは初日には「ばっさ」役を演じ翌日は生まれてはじめてスポット照明を手伝いました。学生寮で同室だった同役のダブルの学生と老けたばっさに見せるための努力を語り合い、欠けた歯をまだ余計に2本増やしたりして舞台を楽しんだものです。皆で早起きして見たグランドキャニオン。朝の光に浮かび上がる壮大な景観に人間の卑小さを思い知らされた私達は言葉もなかったすくんでいました。人生観が変わる程の強烈な瞬間でした。何かと日々の忙しさに追われ命の大切さをつい忘れそうになる今、自戒を込めてこの貴重な体験を思い出します。限りある命なればこそ与えられた日々を素敵に過ごしたいと願う今日この頃です。愛する芸大の更なる発展を祈りつつ。

退任にあたって

准教授 坂井 千春 (ピアノ)

京芸に就任してから早いもので、8年たってしまいました。初めてお話を頂いたとき、私はアメリカの大学の音楽学部で教えていて、息子たちに「京都に行きたい?」ときいたら「ポケモンの国だー!」と喜んだのが最初の反応でした。もちろん子供たちが大好きな任天堂の本店がある京都ですが、様々な伝統を誇る京都で、もっと日本文化に触れさせたい、それだけでなくヨーロッパ留学8年、結婚してアメリカで10年暮らしていた私にとっても、改めて日本文化を見直したいという気持ちが強くなりました。でも、1年のうち数日しか日本語を話す機会もなく、教育機関でレッスンをしたのは外人だけという私にとって、帰国することは怖くもありました。

京芸で教え始めてみると、学生さんたちは非常に素直で優秀、とてもアットホームな雰囲気、先生方も頓馬な私を優しくご指導くださり、昔から居るように楽しく過ごさせて頂きました。学生たちがお別れに作ってくれたアルバムの写真を見ると、門下生たちとコンパ、試験、卒業生、リサイタル等々、本当に珠玉の思い出の詰まった8年間だったと思います。最後に研究室を掃除していると、しみじみ胸の詰まる思いでした。

今回の異動も突然でしたが、人生何が起こるかかわからないと、いつも受け身に生きてきた私が、これから東京でやっていけるかどうか正直心配です。でも、学生たちにいつも言っているように、自分なりのベストを尽くすしかないと思っています。今までお世話になったたくさんの方々、本当にありがとうございました。また、一緒に勉強する機会があった多くの学生さんたちも、この狭い日本の中、再びお会いすることもあるでしょう。お互いに体に気を付けてがんばりましょう。

着任のあいさつ

准教授 小濱 妙美 (声楽)

2011年4月、京都市立芸術大学の声楽准教授に着任致しました小濱妙美と申します。おかげさまで無事初年度を終え、ホッとする間さえなくこの4月より2年目がスタートし、気持ち新たに頑張っているところです。

私は東京芸術大学大学院在学中に、幸運にもエリーザベト・シュヴァルツコプフ女史に才能を見出され、彼女の招きでまずスイスに留学致しました。彼女のもとで研鑽を積み、ヨーロッパデビューしてからはスイス・イタリアドイツを中心に舞台に立ち、後にはアメリカへと活躍の場を広げました。

私は、日本の由緒ある伝統文化や芸術の都「京都」にて是非とも後進の指導育成に専念したいと考え、昨年一大決心し帰国致しました。古く重厚な歴史を持つヨーロッパと京都…洋と和の違いはあっても共通点は多く親近感を覚えます。私がヨーロッパで学んだ沢山のこと=声楽の真髄、そして愛情深く厳しく御指導下さった亡き我が恩師シュヴァルツコプフの音楽をしっかりと伝えていきたいと思っています。学生達より先にこの世に生まれた分、教える立場にありますが…私自身も学生達と共にまだまだ高みを目指し、極めていきたいと考えております。

この京都芸大からひとりでも多く世界に通用する音楽家が巣立ってくれますように!!と私は努力を惜しみません。私に与えられたこの尊い天職にこころから感謝し、ますます精進する覚悟でおります。

准教授 砂原 悟 (ピアノ)

昨年4月より京都芸大にお世話になることになりました。私は約2年間の留学生活をはさんで25年ほど、東京の私立音楽大学に勤務しておりました。これまで京都にはそれほど縁が深かったわけではなく、自分の拠点になるうとは夢にも思っておりませんでした。突然の人生の転機に、まるで生まれ変わったような新鮮さを覚えます。

京都の魅力はあらためて書くまでもありません。京都にいただけで歴史と文化を重んじる人々の気持ちにいたるところで触れることができます。音楽をやっている人間にとってこんなに嬉しいことはありません。最近邦楽にも興味がわき、2年前から小唄を習いだしたところでした。自分自身の精進のためにもこの環境を大切にしていきたいと思っております。

一年間京都芸大に勤めてみて感じるのは、教員と事務の方々の結束力の強さです。ひとつの目標のために皆が同じ方向を見つめている。この空気を学生たちが感じないはずはありません。彼らもしっかりとした目的意識を持ち自身の課題を自身で見つけようという姿勢が見られます。素晴らしい素質を

もった彼らといっしょに切磋琢磨して音楽の素晴らしさ、そして勉学の苦悩、すべてひっくるめて共有していければと思います。

准教授 岡田加津子 (作曲)

2011年4月から京都市立芸術大学専任の職務を命ぜられまして、この春で丸1年になります。私と京都とのご縁は遡ること35年前、冷たい雪の降りしきる1月、京都市立堀川高校音楽科(現・京都市立京都堀川音楽高校)を受験した日から始まりました。生まれは神戸、小学校は広島、中学校は福岡…と、父の仕事の都合で、転々と住まいを移してきたせいか、高校が京都、というのも、ごく自然に自分の運命として受け入れ、京都という個性的な土地と、音楽科という特殊な環境にわが身を浸して高校3年間を過ごしました。その後、東京で10年、ドイツで2年弱を過ごし、また何のご縁があつてか京都に住むことになりました。京都芸大とのご縁は1995年に訪れました。ソルフェージュの非常勤講師としてのお話をいただいたのです。ソルフェージュ教育は、私にとって大変興味深い分野だと思っていましたから、願ってもないお仕事でした。それから16年間、京都芸大に毎週ソルフェージュ担当として通いながら、自分の作曲活動も、ここ京都で徐々に広がっていきました。1年前、京都芸大の作曲専攻の専任を命ぜられて以来、私は新たな疑問、新たな課題に向き合わざるを得なくなりました。それは、今日こんにち、我々がどんな音楽を創造すべきなのか?京都芸大作曲専攻では、どのような特徴を前面に押し出していくべきか?ということです。西洋クラシック音楽(すなわち、音符の世界)に基礎を置きつつも、邦楽の重要性、身体性、現代性、ポピュラー性も考慮するとしたら、どのような教育カリキュラムが考えられるのか…私自身も試行錯誤しながらの毎日になると思いますが、何より作曲専攻学生のチャレンジ精神を重んじながら、創造の世界を柔軟に広げていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

----- 切り取り線 -----

京都市立芸術大学音楽学部 第141回定期演奏会

音楽学部同窓会真声会 会員券

2012年7月8日(日) 14時開演(13時開場)

京都コンサートホール大ホール

切り取り線

講師 上野 洋子 (声楽)

2010年の秋より講師として再び京都市立芸術大学でお世話になっております。

大学卒業後はヨーロッパへ留学しそのまま在住しましたため、全く違う文化の中で12年間を過ごしておりました。身は欧米人に負けじとすっかり横に膨れ上がり、心も自由そのものになり変わり果て、日本の生活に慣らすことなく帰国一週間後に大学で働き始めましたことは、日本語は通じるものの感覚はまるでヨーロッパで、今から思えば浦島太郎どころの騒ぎではなかったと苦笑いたします。未だ日本人としてのリハビリの最中です(笑)。

12年間暮らしておりましたウィーンでは、留学時は歌曲を専門にする科に籍を置き、メゾ・ソプラノとしてコツコツと1人で作り上げる音楽を、卒業寸前時にはオーストリアにもう少し滞在したい理由からオペラ座のオーディ

ションを受け、専属合唱団員の第一ソプラノ(一番高い所を歌うパート)として就職する事となり、そのマンモス団体の中で大勢の人たちにもまれて9年間キャッキヤ楽しく舞台を駆け回っておりました。

今、私の舞台は再び沓掛に変わり、リハビリの終わらぬまま学生さんたちと一緒にキャッキヤ楽しく研究室で飛び跳ねてレッスンしております。大声で笑い、元気に、時には厳しく、共にたくさんのことを学んでおります。挫折のたびに音楽への熱意が消えてしまっている学生さんがあまりに多いことへの疑問を胸に、音楽の持つ本当の素晴らしさや喜びを私の言葉で伝えていきたいらと思っております。

「紙面の都合上、豊嶋泰嗣先生と日紫喜恵美先生のメッセージは次号に掲載します」



研究室訪問



イリーナ・メジューエワ [IRINA MEJOUEVA] 先生

2010年に創立130周年を迎えた音楽学部は定年退職教員と他校への転任教員が相次ぎ全体の約分3の1の教員が入替わりしました。

第51号でのピアノ専攻の野原みどり先生の研究室訪問以降に多数の新任教員の着任があったにもかかわらず、しばらく研究室訪問ができずにおりました。

2012年、京都芸大が公立大学法人化し音楽学部60周年を迎えたこの4月、音楽学部は初の外国人教員をお迎えすることになりました。

今号では専任講師として着任されたばかりのイリーナ・メジューエワ先生(ピアノ専攻)の研究室を訪問いたしました。

一着任なさって約1ヶ月ですね、どんなご感想をお聞かせください。

大学で教えるのはまったく初めての経験ですので、最初はとても緊張しました。いまでもそうです。たぶん、学生たちも緊張していると思います。でもみんなすごくいい子達です。ちょうど一年前に特別マスタークラスに呼ばれたことがあったのですが、その時とても感動的だったのは、大学の雰囲気が素晴らしいことでした。少人数ですが、皆お互いに友達で、すごく熱心で、素直で、真面目で、...。教えることはとても楽しみであり難しいことであり、教えると同時に何か学生達にも教えられることもあり、...。とてもやりがいのある仕事だと思います。

一現在の京都芸大の雰囲気は欧米の大学に似てきていると感じ、創造的な環境になったように思います。

そうですね。ちょっと日本っぽくない、と申しましょうか、とてもいい感じですよ。

一日本との出会いはいつでしたか？

初めて日本に来たのは1995年。大学生のときでした。ウラジミール・トロップ先生と私と男子学生と三人で、日本各地を公演してまわりました。だいぶん前のことでなつかしいです。

一大変流暢にお話になり、PCメールも漢字の入った素晴らしいお返事をいただきました。ロシア語から日本語を勉強することはとても難しそうですね。

そうですね。ただ私はあんまり勉強しませんでした。日本語学校にも行ったことはありません。なんとなく話せるようにはなりましたが、やはり漢字は難しいです。これからもうちょっと勉強しなければいけないなあ。



一これからどのような教育をなさろうと思っていっぱいいますか。

ピアノを上手にひくことはもちろん大事なことです。しかし大学の4年間で出来上がったものをはいどうぞ、という世界ではないと思います。自分自身をどうやって高めるのか、作品に対してどのような態度をとるか、自分の中で、音や音楽に対する理想をいかに高めるか、が大切です。音楽は精神的な活動だと思っています。音そのもの、楽器そのものをどう響かせるべきか。作品というものはどういうものなのか。作品にたいするリスペクトの気持ちや芸術に対する理想、自分自身の考えかたをちょっとでも伝えられればいいなと思います。あとはそれぞれ自分の経験を通して自分自身でやるしかないのですけれども。

一自分ひとりですることができるようになること、と先生が以前書いておられたのが印象的でした。

それを教えることができれば、教育者としてこれ以上の喜びはございません。

一今後の録音や演奏活動のご予定はいかがですか？

多少減っていくかもしれませんが、できるかぎり続けたいと思っています。やはり自分の演奏家としての経験があって、それを通してさまざまなことを教えるのが学生にとってプラスになるように思えます。それがなくなったら教えることもできないかもしれません。

一激しく回転し静止して始めて姿を現し、回り続けなければならない独楽のような、演奏家というダイヤモンドの本質を感じます。

日本は西洋音楽の本格的導入から150年まであと5、6年。私達はとうとう本質的な意味での東西の交差する文化の創造を孕む前夜祭の時期を迎えます。ロシアの偉大な先輩であるムソルグスキーそしてその音楽をオーケストレーションすることでロシア音楽を世界全体へ放射したラヴェルというふたりの作曲家のことを考えながら今日、先生の研究室に伺いました。

一それではロシアの総合芸術的な音楽教育や、そしてロシアのかたがたの芸術と生活についてお話をいただけますか。

具体的にいえば、たとえば、シューマンの「クライスレリアーナ」をひく時、E. T. A. ホフマンの作品を読んだことがない、というのはロシアではあり得ない話です。音楽は芸術全体の一部であり、文学や美術やそのグラウンド(土壌)に結び合っていて、トータルな理解なしに音楽を演奏することはできません。ロシア・ピアノズムでは「想像力」を大切にします。想像力を豊かにするために本を読むこと、絵画を見ること、自分の世界を豊かにすることです。そのようにして芸術が生活に根付いたものになると思います。

一最後に、メジューエワ先生の30年後のゴールについてお尋ねいたします。

ゴールや目標はあんまり考えたことがないです。芸術は終わりのない世界ですから。30年後にはせめて日本語がもうちょっと上手になっていたらいいな、と思います。

とても謙遜してお答えになりましたメジューエワ先生。
先生がロシアの芸術の伝統を体現して日本語をお話になり私達の仲間となってくださったことで、京都の、そして私達全体の毎日の一瞬一瞬が創造へと向かい、すべてが永遠につながる時間へと確実にいったことを感じる一日となりました。
(インタビュー：中村典子[32期作曲])

真声会後援の演奏会

♪松原央樹 クラリネットの夕べ

日時：2012年1月26日(木) 19:00

会場：遊音堂

出演：松原央樹(29期Cl)、右近恭子(25期Pf)

曲目：ダンヒル 幻想組曲Op.91
ヒンデミット ソナタ(1939)
ブラームス ソナタOp.120-2 他

♪金田仁美 ピアノリサイタル

～第2回フォーレ国際ピアノコンクール第1位受賞記念～

日時：2012年2月23日(木) 19:00

会場：青山音楽記念館バロックザール

出演：金田仁美(52期Pf)

曲目：ドビュッシー 映像第1集“水に映る影”“ラモー讃”“動き”
フォーレ 前奏曲1番op.103、即興曲5番op.102、バラードop.19
ラヴェル ラ・ヴァルス
メシアン 前奏曲集より“鳩”“風に映る影”

♪真声会奈良支部第14回定期演奏会 ならdeクラシック

日時：2012年2月24日(金) 18:30

会場：秋篠音楽堂

出演：山口暁子(42期Pf)、塩田藍(53期Pf)、江口恭子(37期Pf)、
玉井幸子(28期Pf)、桐紀子(37期Pf)、岩谷寿美子(30期Pf)、
松阪香織(42期Pf)、谷風佳孝(46期Fl)

曲目：モーツァルト 2台のピアノのためのソナタニ長調 KV448
ラヴェル スペイン狂詩曲
タイユフェール 間奏曲、野外遊戯、トッカータ、シチリアーノ
ラフマニノフ 組曲第2番 op.17

♪エンジョイコンサートin北山モノリスVol.4

高木知寿子 カテリーナ・バジェノフ ピアノ連弾コンサート

日時：2012年2月23日(木) 11:00

会場：北山モノリス

出演：高木知寿子(27期Pf) 他

曲目：フォーレ ドリー
ブラームス ハンガリー舞曲 第1・4・5番
ドビュッシー 小組曲

♪和と洋の共演～高木知寿子と仲間たち～

日時：2012年2月26日(日) 15:00

会場：京都芸術劇場「春秋座」

出演：高木知寿子(27期Pf)、アナタリー・バジェノフ(Vn)、
イワン・クーチャー(Vc)、高木克美(和太鼓)、
カテリーナ・バジェノフ(Pf)

曲目：ベートーヴェン ピアノとヴァイオリンの為のソナタ イ長調
op.47「クロイツェル」
ブラームス ピアノとチェロの為のソナタ 第1番 ホ短調
op.38 他

♪アフター・アワーズ・セッション ちょっと小粋なアンサンブル

日時：2012年3月10日(土) 18:30

会場：ピッコロシアター 小ホール

出演：バプアゼ・ギオルギ(教員Vn)、池村佳子(45期Vc)、
右近恭子(25期Pf)、松原央樹(29期Cl) 他

曲目：スーク ピアノ四重奏曲Op.1
シュミット ソナチネOp.85
ウェーバー 三重奏曲 Op.63
モーツァルト ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 K.424

♪浅野未麗 帰国記念リサイタル

日時：2012年3月24日(土) 15:00

会場：青山音楽記念館バロックザール

出演：浅野未麗(49期Pf)

曲目：モーツァルト ピアノソナタ 二長調Kv.205b(284)
シューベルト 3つの小品(即興曲)D.946
ショパン 4つのマズルカop.17
アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ op.22

♪復活への祈り～play for resurrection～

日時：2012年4月4日(水) 19:00

会場：日本キリスト教団島之内教会

出演：丸山晃子(51期Vo) 他

曲目：クーブラン 聖水曜日のためのルソン・ド・テネブル
勝利なり、よみがえりたまひしキリストに
(復活のモテット) 他

♪～台風12号による～災害復興支援チャリティーコンサート

日時：2012年4月22日(日) 14:00

会場：フォルテワジマ4階イベントホール(和歌山市本町2丁目)

出演：宮井愛子(50期Pf)

曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第21番 ハ長調 Op.53

「ワルトシュタイン」

第8番 ハ短調 Op.13 「悲愴」

第14番 ハ短調 Op.27-2 「月光」

第23番 ヘ短調 Op.57 「熱情」

♪クラリネットのひととき VOL.2

日時：2012年5月8日(火) 19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：河内勇(34期Cl)、福井真裕子(Pf) 他

曲目：モーツァルト ケーゲルシュタット・トリオ
ベーカー クラリネットとピアノのためのソナタ
草野次郎 クラリネットとピアノのための『融合』(改訂版)
(本邦初演) 他

♪スヴェトラ・プロティッチ 2台ピアノコンサート

日時：2012年5月13日(日) 14:00

会場：アルカスホール

出演：望月章未(25期Pf) 他

曲目：バッハ チェンバロ協奏曲よりBWV1056へ短調
モーツァルト 2台ピアノのためのソナタ二短調K448(375a)
ブラームス ハイドンバリエーション op.56-b 他

♪香取由夏&ヘマ・トゥピー ピアノコンサート

日時：2012年5月25日(金) 19:00

会場：大阪市中央公会堂集会室

出演：香取由夏(46期Pf) 他

曲目：シューベルト 即興曲op.90、op.142-2
ドビュッシー ピアノのために、野を渡る風、西風の見たもの、
ブラームス シューマンの主題による変奏曲op.9 他

♪蜂谷葉子・大岡真紀子 ピアノデュオの魅力・番外編

～二人のソロによる～歌と踊り

日時：2012年5月27日(日) 15:00

会場：青山記念会館バロックザール

出演：蜂谷葉子(29期Pf)、大岡真紀子(29期Pf)

曲目：モンボウ 歌と踊り 全13曲 他

♪エンジョイスペシャルコンサート in 北山モノリスV61.5

(新)高木知寿子ワルシャワピアノトリオ コンサート&ディナー
(演奏者と共に)

日時：2012年6月7日(木) 19:00

会場：北山モノリス

出演：高木知寿子(27期Pf)、ピオトル・ツェギエルスキー(Vn)、
ロベルト・プロフスキー(Vc)

曲目：キクタ エレジー
パガニーニ カンタービレ
ピアソラ リベルタンゴ、ブエノスアイレスの秋
ラフマニノフ ヴォカリーゼ
メンデルスゾーン ピアノ三重奏第1番 二短調 op.49 第1楽章

♪ピアノアンサンブル doux vol.6

日時：2012年6月9日(土) 15:00

会場：スタインウェイ東京・松尾ホール(日比谷)

出演：小松久美(27期Pf)、曾我尚江(27期Pf)、奥田章子(32期Pf)、
高橋知子(32期Pf)、元木いずみ(32期Pf)、高橋律子(34期Pf)

曲目：ドボルジャーク スラブ舞曲op.46より 第8番
ラヴェル ボロディン風に、水の戯れ
ミヨー スカラムーシュ
シューベルト 「ます」 op.114
シューマン アンダンテと変奏曲
ドビュッシー ハイドンを讃えて、喜びの島、リンダラハ

♪ルカ・フランツェッティ&アンサンブル・サビーナ コンサート

日時：2012年6月22日(金) 19:00

会場：京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

出演：小松正枝(42期Vn)、藤井智子(43期Vn)

曲目：ハイドン チェロ協奏曲 二長調
バッハ 無伴奏チェロソナタより 他

♪ルカ・フランツェッティ&アンサンブル・サビーナ コンサート

日時：2012年6月23日(土) 14:00

会場：豊中市立アクア文化ホール

出演：小松正枝(42期Vn)、藤井智子(43期Vn)

曲目：ハイドン チェロ協奏曲 二長調
バッハ 無伴奏チェロソナタより 他

♪高木知寿子ワルシャワピアノトリオ アンサンブルコンサート

ワルシャワフィルノトモニーのメンバーと共に

日時：2012年6月24日(日) 15:00

会場：あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール

出演：高木知寿子 (27期Pf)、ピオトル・ツェギエルスキー (Vn)、
ロベルト・プロフスキー (Vc)、マレック・イヴァンスキー、他
曲目：ベートーヴェン ピアノとヴァイオリンの為のソナタ イ長調op.47
「クロイツェル」
メンデルスゾーン ピアノ三重奏第1番 二短調 op.49 第1楽章
ドヴォルザーク ピアノ五重奏曲 イ長調 op.81

♪ファウエムを飾ったヴィルトゥオーソたち 祝祭記念ガラコンサート

日時：2012年7月5日(金) 18:30

会場：いずみホール

出演：佐藤謙蔵 (33期Vo)、三井ツヤ子 (16期Vo) 他

曲目：リスト ローレライ
ブラームス 教会の墓地で 他

♪ピアノ・デュオ LUKIAコンサートVOL.2

日時：2012年7月9日(日) 14:00

会場：京都府民ホール アルティ

出演：佐藤薫 (25期Pf)、中村亜紀 (32期Pf)

曲目：ドビュッシー 牧神の午後への前奏曲
プーランク 2台のピアノのためのソナタ
ジョリベ ホピスネークダンス 他

♪ヴァイオリン・ピアノデュオコンサート

日時：2012年7月15日(日) 14:00

会場：音楽空間ネイヴ

出演：鈴木愛子 (44期Pf) 他

曲目：シューベルト しぼめる花の主題による変奏曲op.160
リスト ペートルカのソネット第104番
グリーグ ヴァイオリンソナタ第3番 ハ短調op.45

♪四人展～ソプラノ・フルート・ファゴット・ピアノ

日時：2012年7月15日(日) 14:30

会場：青山音楽記念館バロックザール

出演：附田恵里子 (21期Vo)、水間博明 (27期Fg)、大江浩志 (27期Fl)、
岩崎宇紀 (27期Pf)

曲目：ヘンデル 私を泣かせてください
ピアソラ アディオス・ノニーノ
プッチーニ オペラ『トスカ』より“歌に生き、恋に生き” 他

♪ソプラノ、ピアノ、サクソフォーンによるジョイントコンサート

「ココロ、つなぐ歌 vol.2」

日時：2012年7月28日(土) 14:00

会場：京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽ホール

出演：今井順子 (44期Vo)、柿原久実子 (33期Pf) 他

曲目：ムチンスキー ソナタp.29
ベンソン エオリアン ソング
リスト オーベルマンの谷 他

♪Unmarked Music アンマーケット・シンガーズ

第7回演奏会『活動10周年を迎えて』

日時：2012年7月29日(日) 14:00

会場：あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール

出演：奥田聖子 (48期Vo)、丸山依里 (48期Vo)、丸山晃子 (51期Vo)、乃村
八千代 (院22期Vo)、藤原さおり (46期Vo)、坂本晃一 (55期Vo)、藤
野豊 (52期Vo)、樋口卓哉 (55期Vo)、古味寛康 (35期Cb) 他

曲目：バッハ モテット「来てください。イエスよ、来てください」
BWV229

オルバーン おお、わが愛しの人よ
ラター バースデーマドリガル
武満徹 死んだ男の残したものは 他

♪アフター・アワーズ・セッション～15th Anniversary

日時：2012年8月2日(木) 19:00

会場：あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール

出演：日比浩一 (29期Vn)、池村佳子 (45期Vc)、松原央樹 (29期Cl)、
右近恭子 (25期Pf) 他

曲目：プーランク 六重奏曲
ショスタコーヴィッチ ピアノ五重奏曲 op.57
シュポア 九重奏曲 op.31

♪0才からのクラシックコンサート ～ようこそ音楽の世界へ～

日時：2012年8月18日(土) 14:00

会場：神戸市東灘区民センター大ホール うはらホール

出演：戸川晃子 (44期Pf)、山守美由紀 (48期Vo)

曲目：ドビュッシー 喜びの島 他

♪クライスラーへの手紙～クライスラー没後50年をおぼえて～

日時：2012年8月18日(土) 14:30

会場：香芝市ふたかみ文化センター市民ホール

出演：喜多ちひろ (53期Vo) 他

曲目：クライスラー ウィーン奇想曲 プレリユードとアレグロ
ベートーヴェン ソナタ 第8番op.30-3
シューベルト ソナタ イ長調 他

♪山本裕梨子ピアノリサイタル

日時：2012年8月19日(日) 15:00

会場：京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽ホール

出演：山本裕梨子 (47期Pf)

曲目：ショパン バラード第1番 op.23
ラフマニノフ 楽興の時 op.16
リスト ソナタ 口短調 他

♪緋田芳江・栗木充代ジョイントリサイタル

ECHOS DU TEMPS PASS 過ぎし日のこだま

日時：2012年9月30日(日) 15:00

会場：ファミリアホール

出演：緋田芳江 (34期Vo)、栗木充代 (34期Vo)

曲目：ラヴェル
“Cinq Melodies populaires grecques” “Deux Melodies hebraiques”
ドビュッシー “Trois Chansons de Bilitis” 他

♪奥井富貴子ヴァイオリン・リサイタル

日時：2012年10月26日(金) 19:00

会場：ムラマツリサイタルホール

出演：奥井富貴子 (16期Vn) 他

曲目：バッハ シャコンヌ
ラヴェル ハバネラ
マスネ タイスの冥想曲
ドビュッシー 亜麻色の髪の乙女 他

※演奏会の真声会後援および会報掲載は会費納入者のみとさせていただきます。どうぞご了承ください。

訃報

矢田部宏さま(3期作曲)が、2011年12月にご逝去されました。
慎んでお悔やみ申し上げます。

真声会からのお知らせ

真声会のホームページを是非ごらんください!

週3日の同窓会室開室により、ホームページが充実してまいりました。
教員・奏者等の募集情報や、後援演奏会情報を随時更新しております。
また、過去の会報も見ることができます。どんどんアクセスして下さい。

<http://shinseikai-kcua.com/>

同窓会事務室が月・水・金の週3日稼働しています!

音楽学部同窓会事務室は現在、月・水・金の週3日稼働しています。
美術学部と同室で、美術学部・音楽学部同窓会事務室として同窓会業務

を行っております。皆様、ぜひお気軽に専用電話番号にご連絡下さい。
本部役員または担当者がお問合せに直接お答えします。

開室日：毎週月曜日・水曜日・金曜日 (10:00~15:00)

*年末年始、お盆、祝日及び学内立ち入り禁止期間(入試等)は休室します。

電話番号 080-6185-4494

開室時間外にお電話を頂いた場合、留守番電話にお名前とご連絡先を
録音して頂ければ、開室時間中に同窓会事務室より連絡いたします。



今回、初めて編集の作業をお手伝いさせていただきました。今まで当たり前のよう読んでいた会報が手元に来るまでに、真声会役員の方々の努力と会員の皆様のご協力があり、こんなにも手間隙をかけて製作されていたことに驚きました。ああ…この世に当たり前なんてことはなかったなあ…と改めて実感しました。それと同時に自分のパソコン能力のなさにも驚きました。あれ?私ってどっちかって言ったら現代っ子だったような…?という焦りの中、編集委員の大先輩の皆様に助けて頂きながら、…私はあまり役にはたたなかったと思います。

しかし、体力だけは昔からありましたので、そちらの方面でお役に立てれば!と意気込んでおります。皆様、どこかで私をみかけましたらどうぞお気軽に声をかけて下さい。大得意な荷物運びいたします!! そんなわたしですが4年間、どうぞよろしくおねがいたします。(S)